

(別紙様式)

都道府県番号	14
都道府県名	神奈川県

()
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

厚木市立戸田小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	64	57	69	60	64	64	2	380	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 算数科学習における少人数指導のあり方</p> <p>・テーマの設定の趣旨 本校の子どもたちは、学習において、主体的に課題を見つけ積極的に問題解決し、学習の成就感を得ているとは言い難い面がある。特に算数科では、この傾向が顕著である。 このため、算数科において少人数指導を取り入れて基礎学力の向上を目指したきめ細かな指導とともに個性を生かす指導を充実させ、一人ひとりの子どもに確かな学力をつけるための研究を進めることとした。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

テーマ「算数科学習における少人数指導のあり方」

少人数授業担当者の授業時間数が週22時間以上ということから、研究対象学年・教科を第3学年・第4学年の算数科とした。

そのため、少人数授業担当者は、3・4学年の全算数を指導することとした。また、学習形態が二つになることから、外部の算数専門家に依頼し、スタッフになっていた。研究推進にかかわっていただいた。校長も必要に応じて指導者となった。

() 実践研究の内容

(ア) 少人数指導における基本的な考えに対する共通理解

・学習内容の理解や習熟の程度等に応じた学習形態の学習とする。

- ・学習ペース、学習進度、学習順序に応じた学習とする
- ・各教師の役割を明確にし、意志疎通を十分図る。
- ・一人ひとりの子どもの特性や願いを尊重する。
- ・一人ひとりの子どもにあった指導により成就感をもたせる。
- ・学習する教室はグループごととする

(イ) 学習形態(グルーピング)

子どもの中に個人差が見られることや一人ひとりの子どもに知識や技能を確実に身に付けるための時間を保障してやりたいことから、グループは「ぐんぐんコース」「じっくりコース」の二つとした。

《ぐんぐんコース》：学習内容はおおむね理解できた。

プリント等に自力で取り組み、どんどん問題を解きたい人。

《じっくりコース》：やり方を復習したり、問題解決にゆっくり時間をかけたい。

自分のペースを守りたい。

教師や友達と共に問題を解きたい人。

- ・グルーピングは子どもが理解するための学習ペース、つまり「時間差」を基本とした。
- ・グループの所属選択は子ども自身とした。
- ・1単位時間ごとにグルーピングをした。
- ・1単位時間ごとの子ども一人ひとりを把握し、グループの変遷を考察する。

(ウ) 基本的な授業モデル

学習時間という要因を基本とし、一斉指導 形成的評価 類型別グループ編成 学習ペースによるグループ編成 学習順序選択編成という形を1単位時間の中での授業モデルを研究した。

(エ) 到達目標、評価規準等の設定と年間指導計画

到達目標、評価規準、算数的活動評価の観点、授業モデルを含んだ年間指導計画を作成し、指導・評価に生かした。

(オ) S - P表(Student - Problem得点表)による評価

子どものよい点、可能性、進歩の状況などを評価するための成績処理ソフトS - P分析法によるS - P表評価を試みて、学習の成果が子どもに確かな学力として定着しているかどうかの目安の一つとした。

(カ) 子どもや保護者の反応(アンケート調査)

研究が始まってまもない6月に研究対象学年の子どもと保護者にアンケート調査を実施した。双方とも算数の時間・内容が「たいへんよい」「わかりやすい」「わかるようになった」「学年がかわっても続けてほしい」という意見がほとんどであった。

() 成果と課題

成果

- ・ S - P 表による評価結果により、子ども達に確かな学力が付いたように思われる。
- ・ 子どもたちが算数の時間に対して意欲的、積極的にのぞみ全員が生き生きとしていた。
- ・ 子どもと教師との距離がなくなり、会話がスムーズにできるようになった。
- ・ 教室や指導者が時間ごとにより変わり、新鮮な雰囲気になった。
- ・ 個に応じたきめ細やかな指導が可能となった。
- ・ 学習ペースや学習進度、習熟の程度を子ども自身に合わせたので、精神的に余裕を持てるようになった。
- ・ 事前の研究と打合せにより、指導者の資質の向上と授業の充実を図ることができた。

課題

- ・ 教師間の打合せをする時間と教材工夫する時間、問題作成する時間を十分確保できない。
- ・ 同じグループの中でも時間差が生じており、なお一層きめ細かな指導をするには指導者数が足りない。
- ・ 実践研究は2学年が対象なので、教師全体に研究内容が広がりにくい。
- ・ 学校全体で研究推進を図るには、少人数指導者を増やすことである。このことは、子ども・保護者の願いでもある。
- ・ 用紙や印刷代等に費用がかかる。

() 成果の普及方策

研究会.....平成14年11月20日(水)

- ・ 地区小学校教育研究会研修日で授業公開
- ・ 会場は厚木市立戸田小学校
- ・ 対象は地区小学校教員

保護者授業公開.....平成15年1月21日(火)、22日(水)

- ・ 会場は厚木市立戸田小学校教室、少人数指導教室
- ・ 対象は、戸田小学校保護者

学校だより(平成15年1月号)に学力向上フロンティアスクールについて掲載

本校のホームページ

<http://www.edu.city.atsugi.kanagawa.jp/toda-es/>